

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：医療観察法における、新たな治療介入法や、行動制御に係る指標の開発等に関する研究

2. 研究開発代表者：平林 直次

3. 研究開発の成果

9つの研究開発分担当班を組織し、医療観察制度に関する転帰・予後調査を継続するとともに、同調査により明らかとなった長期入院、再他害行為と再入院、自殺等の新たな課題に対する解決策を示すことを目的として研究を進めた。

①指定入院医療機関退院後の予後に影響を与える因子の同定に関する研究

平成17年7月15日から平成27年7月15日の間に、指定入院医療機関に入院し、予後調査に同意した計526名の転帰及び予後を調査した。医療観察法の要件となるような重大な他害行為の累積発生率及び自殺率は、3年目でそれぞれ2.0%、2.5%と推定された。以上の結果より、入院処遇対象者は退院後概ね良好な経過を辿っていることが明らかとなった。

②再び重大な他害行為を行った対象者及び再入院者に関する全国調査

平成27年度は、5つの指定入院医療機関に訪問し、再入院例25例、再処遇例5例について聞き取り調査を実施した。また、医療観察法入院対象者のいわゆる“データベース整備事業”と連携し、再入院例や再処遇例についても継続的な調査を行える体制確立に着手した。

③入院処遇から通院処遇を経ないで処遇終了となる事例の予後調査

平成27年度の調査（平成26年7月15日から27年7月14日までの調査期間）によると、処遇終了で退院した対象者は22名であった。処遇終了退院後の予後調査では、指定入院医療機関17施設が倫理審査を終え、申請予定の施設も含め、本研究を遂行する体制整備を進めた。

④治療抵抗性統合失調症に対する効果的かつ安全な治療法の確立に関する研究

全国の医療観察法指定入院医療機関におけるクロザピン処方割合は、治療抵抗性統合失調症対象者の67%、精神科主診断が統合失調症である対象者の25%であった。医療観察法病棟におけるクロザピン処方を促進するために、血漿中クロザピン濃度およびノルクロザピン濃度を液クロマトグラフィー法により安定して測定できる技法の確立を進めた。

⑤重複精神障害を持つ対象者の心理社会的治療の開発と導入に関する研究

重複障害を持つ対象者に対する心理社会的治療の向上を図るために、ピアレビューの効率的かつ効果的な実施方法を検討し、6施設において実施した。派遣チームによる継続的コンサルテーションの有効性が確認された。

⑥指定通院医療機関の機能分化に関する研究

指定通院医療機関の診療形態や診療機能に応じた指定通院モデルの開発を行うことを目的に、沖縄県内のすべての指定通院医療機関に対しアンケート調査・インタビュー調査を行った。その結果、受入数の多い医療機関ほど多職種チーム医療の水準が高いこと、指定医療機関及び地域関連機関の連携体制の構築が必要であることが明らかとなった。

⑦医療観察法の諸ガイドラインの見直しの必要性に関する研究

班会議及び各職種の研究会・研修会において「入院診療マニュアル案」の概要説明とアンケート調査を実施した。その結果、多職種チームの共通言語、対象者の個別性、同マニュアル使用後の効果判定などの課題が明確となり、その対策を検討した。

⑧措置入院者の実態把握と必要な医療密度に関する研究

措置入院のガイドラインを作成するために、先進的な4つの医療機関に対して、先行調査として聞き取り調査を行った上で、国公立病院精神科および精神科救急入院料を算定している計163医療機関を対象に、措置入院の開始から終了後までを俯瞰したアンケート調査を実施し、ガイドライン作成の準備を進めた。

⑨医療観察法従事者のメンタルヘルスに関する研究

医療観察法指定入院医療機関内における暴力の特徴を具体的に示すために、予備的に単施設調査を実施し、被害者のプロフィール、暴力が発生しやすい場所や状況等を明らかにした。